

ウィルの言葉を信じ、男はナタタ川にカヤックで漕ぎ出しました。

男は少し不安でした。でも時間の秘密が知りたくて、どうしてもオオカミをこの目で見たくて、男は漕ぎ出したのでした。

ナタタ川の流れを漕ぎながら、男は必死に青い水流を探しました。目を^{ちまなこ}血眼にして小さな支流を探しました。小一時間ほど漕ぐと、川べりの大きなトウヒの枝にフクロウが止まってじっと男を見つめていました。そこに小さな青い流れはありました。

「ああ、これだ。これに違いない」

